

BIM ライブラリーコンソーシアム

臨時 建築部会

議事次第

日時：平成 28 年 2 月 2 日（火） 10:00~11:30

場所：建築保全センター会議室

1. 開会

2. 議事

- (1) 前回議事録の確認
- (2) NBS BIM オブジェクトライブラリーの説明
および関係する資料説明
- (3) 今後の進め方について
- (4) ディスカッション

3. 閉会

会議資料一覧

資料	建 1.5-1	議事次第
資料	建 1.5-2	前回議事録
資料	建 1.5-3	NBS BIM オブジェクト標準
資料	建 1.5-4	BS8541-1/ BS 8541-3
資料	建 1.5-5	建築部会の今後の進め方

次回 日時 : 2 月 23 日（火） 15:00~17:00

場所 : 建築保全センター会議室

日時 平成 27 年 12 月 7 日 (月) 15:00~17:00

場所 建築保全センター会議室

出席者 別紙

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 全体活動計画

資料 3 各部会での論点整理

資料 4 BIM ライブラリーコンソーシアムの設立 (建設 IT ガイド 2016 年 2 月原稿)

資料 5 参考資料 (海外紹介)

司会 BMMC 高橋

開会のあいさつ 志手部会長

- ・ BIM ライブラリーやオブジェクト標準等々は海外が先行している。今回含めて 3 回程度で海外情勢を
しっかり理解して、我々の進むべき方針を決定していきたい。2016 年度の活動がとても重要である。

議題 (1) 自己紹介と部会に期待すること

- ・ コンサルとして某企業の BIM ライブラリーの構築を行ったがあまり効果が得られていないのが現状の
ようだ。今後は活用できるライブラリーを構築していきたい。
- ・ 製造業も建築系ユーザーへの BIM データ提供方法を模索しているようだ。
- ・ オブジェクトを集めるだけでなく情報伝達がスムーズにいくプロセスも検討していきたい。 等々

議題 (2) 海外事例紹介等と簡単なディスカッション

- ・ 論点 5 (オブジェクト表現) に「ジェネリックモデルの取り扱い」とあるが基本設計、施工図等の
フェーズでどの程度の形状、属性が必要かと言う論点が重要項目の 1 つである共通認識を持って
もらいたい。(志手)
- ・ 資料 4、5 に基づき BIM ライブラリーに関係する現状の説明。(以下寺本)
- ・ 資料 3 の論点整理を説明。
- ・ 資料 2 に基づいて活動計画を説明。
- ・ 海外事例を見るとコード体系がライブラリー構築に不可欠である。
- ・ 英国 NBS の BIM オブジェクト標準が世界標準と主張する中、日本はどうか議論が必要である。

[ディスカッション抜粋]

1. 以前 NBS ライブラリーを国際会議で説明を聞いたり、サイトを参照したが、Revit モデルしかない
製品があったり整備が十分とは言えない印象を受けた。また、ジェネリックモデルについても定義が
異なる印象を受けた。(建研 武藤)
⇒10 月に英国で NBS へヒアリングを行った際、「ジェネリックモデルの定義は企業に依存しないモ
デル」という回答を得ている。(寺本)

2. 米国のコード体系は omuniCLASS であり revit に標準装備されているが、英国の UniCLASS とはどの点が異なるか？（志手）
⇒建設 IT ガイド（資料 4）に掲載されているがあまり相違点がない。どちらも ISO12006-2 に準拠している。（寺本）
CI-NET との相違点はどうか？（志手）
⇒海外コード体系は CI-NET/CE-NET ほど細部まで定義されていないと思われる。（振興基金 山中）
同じ製品で各コードを定義比較して問題を洗い出したい。（寺本）
3. ICIS の報告でライブラリーは形状情報、属性情報を分けて構築すべきとの報告だが、各ソフトウェアは対応できるか？
⇒Revit は Excl シートで呼込み可能。RST（拡張機能）を使用すれば自動で操作できる。（AXS 網元）
⇒ ICIS は標準書のスペックライター集団なので IT 技術までは言及していない。（寺本）
4. 標準化はどの製品をどこまで定義するかが論点である。（志手）
⇒メーカーによっては差別化のため個別対応しかないケースがある。
⇒LCC で考えると耐久年数とコストが入っていると助かる。
⇒耐久年数の定め方を定義する世界基準はある。日本では各メーカーが独自の基準で設定する
場合が多い。また、広く利用されているものとして BELCA の報告書がある。もっと広範で利用できる基準が欲しい。（住友セメント 大林他）
5. 仮設機材については論議すべきか？（志手）
⇒ゼネコン各社独自に構築しているが各社基準が違う、地域によっても異なるのでまとめるは難しい。
（大林組 中嶋）
6. 部会員のみなさんの業務でライブラリー等で困っていることがあれば教えて欲しい。
次回までに本で行った NBS BIM オブジェクト標準の翻訳を進めて報告する。（寺本）

次回 2月23日（火）15:00～17:00 建築保全センター会議室

在り方・建築・設備部会の今後の進め方(案)

[グループ 1] 2015 年度に結論を出す予定の課題

①論点 1	グローバル化への対応	……………調査票 1 で 2/22 までに回答
②論点 2	分類の方法	…………… 同上
③論点 7	オブジェクトと情報項目の関連	…………… 同上
④論点 10	ライブラリーの方式(調査)	……………2016 年度半ばまで結論延期 (事務局対応)

[グループ 2] 2016 年度以降に結論を出す予定の課題

<グループ 2A>

⑤論点 3	オブジェクト標準	……………調査票 2 で 2/22 までに回答
⑥論点 4	記述すべき情報項目(関連項目)	…………… 同上
⑦論点 5	オブジェクトの表現	…………… 同上

<グループ 2B>

⑧論点 11	ライブラリーの水準	……………調査票 3 で 2/22 までに回答
⑨論点 12	ライブラリーの実現方法	…………… 同上
⑩論点 13	ライブラリーの在り方	…………… 同上
⑪論点 14	ライブラリーのビジネスモデル	…………… 同上
⑫論点 15	データ入力	…………… 同上
⑬論点 18	必要な部品の範囲とデータ収集(関連として)……………	同上
⑭論点 20	GIS 等のインフラ関係対応	…………… 同上

なお、上記に示されてなく、また運用部会検討案件（論点 8、21）以外の課題、すなわち論点 6、9、16、17、19 は、基本的に各担当部会で検討するものとする。

調査票に関する質問

高橋、水澤、山中

調査票の返送先

高橋 takahashi@bmmc.or.jp

調査票 1

所属：

氏名：

論点 1 グローバル化への対応	[事務局案] BIM は国際的に利用・流通されていくため、BIM ライブラリーの標準検討、構築において、一般論としてグローバル化への対応を図ることは必要である。 具体的な対応として、<u>NBS BIM オブジェクト標準とその関連標準類、また ISO16757-1 を当面の研究対象として、体制を整備(調査票 2 参照)して検討し、また関連する国際会議の場で意見を言うことが必要である。</u> [賛成/部分修正 or 反対、質問等] [この論点に関して会員に対してしてほしいサービス・活動等]
論点 2 分類の方法	[事務局案] 分類方法に関しては国内の慣習、製品系列などがあるため、<u>国内基準の CI-NET が ISO12006 に準拠しているか、または簡単な修正で準拠可能かどうかを体制を整備して検証し、対応可能ならばそれを基本にして分類する。(ただし UniClass とのコード対応は検討)</u>また NBS BIM オブジェクト標準にもこのことを反映するように意見出しをする。 [賛成/部分修正 or 反対、質問等] [この論点に関して会員に対してしてほしいサービス・活動等]
論点 7 オブジェクトと情報項目の関連	[事務局案] ICIS プロジェクト#2 の結論(形状情報と属性情報は分離して扱う)と Stem が同様に<u>形状情報と属性情報は分離していることに鑑みて、そのようにライブラリーで扱うことが問題が少ないと考える。</u> [賛成/部分修正 or 反対、質問等] [この論点に関して会員に対してしてほしいサービス・活動等]

調査票 2

所属：	氏名：
論点 3 オブジェクト標準 論点 4 記述すべき情報項目 論点 5 オブジェクトの表現	[今後の進め方に関する事務局案] ○NBS BIM オブジェクト標準、ISO16757-1 を当面の研究対象。 このため短期のタスクフォース(TF)を複数設置する。 TF1 BIM オブジェクトの標準として内容が必要十分か、従来の慣習と不適合がないか等の検討(事務局+IAI 日本) TF2 オブジェクト項目の設定方針、根拠とする資料の検討(BMMC の建築・電気・機械の設計経験者+設計事務所+建築部会/設備部会希望者+IAI 日本) [実施は両部会] TF3 NBS BIM オブジェクト標準、ISO16757-1、Stem の共通部分の比較検討(設備部会) TF4 オブジェクト、ライブラリーの IT 構造の検討(IAI 日本+東芝村山氏等の専門家、委託も検討) TF5 NBS BIM オブジェクト標準に関係する標準類の翻訳、説明作成等の支援グループ(英語の翻訳ができる人) TF6 ISO、ICIS 等と連携し、説明、情報発信をする(専門家) ○TF4,5,6 を除き 2016 年 5 月までに終了することを目途 [賛成/部分修正 or 反対、質問、意見等] [TF1～6 への参加希望、候補者の推薦]

調査票 3

所属：	氏名：
論点 11 ライブラリーの水準 論点 12 ライブラリーの実現方法 論点 13 ライブラリーの在り方 論点 14 ライブラリーのビジネスモデル 論点 15 データ入力 論点 18 必要な部品の範囲とデータ収集 論点 20 GIS 等のインフラ関係対応	[今後の進め方に関する事務局案] ○論点を整理し、順番を決めて議論する。 ○議論に参加する者は、 ・ ユーザーグループ ・ サプライヤーグループ ・ ソフトウェアグループ ・ 専門家グループ から各々2~4 名程度選び、司会進行の下で議論する。 ○その他の参加者も議論に加わることができる。 ○議論と会員への調査票によって意見をまとめる。 ○2016 年 9 月末までを目途とする。 [賛成/部分修正 or 反対、質問、意見等] [議論への参加希望、候補者の推薦]